

宮崎汎会員が見た世界の旅・第2部人物編第10話

ヒエロニムス ベツレヘム・イスラエル

先年イエス・キリスト生誕の地であるベツレヘムを訪ねた。イエスが生まれたとする聖誕教会に案内された。多くの信者が押し寄せ混雑の極みである。ようやく地下のその場所を目にした。

のぞき見が終り混雑から抜け出し青空の下でほっと一息ついていると、ガイドが庭にある銅像を指さし、あれはヘブライ語の聖書をラテン語に翻訳した聖ヒエロニムスの像だ。彼の訳したラテン語聖書はカトリックの公認聖書である。完璧な翻訳であるが、一か所だけ角と訳した誤訳がある。日本人はヒエロニムスを知らない人が多いが、ぜひ覚えて帰ってもらいたいと告げられ、改めて像を眺めカメラに収めた。

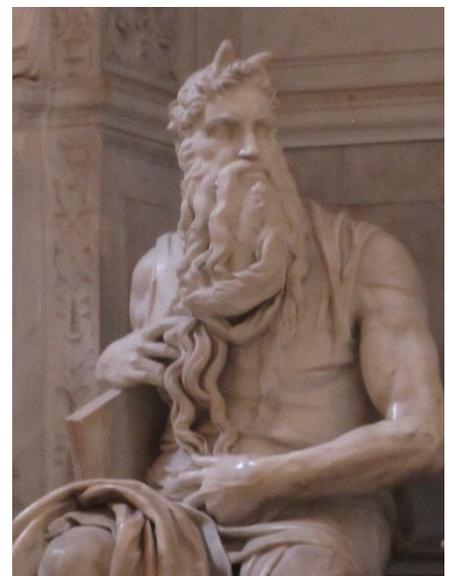


エウセビウス・ソポロニウス・ヒエロニムスは（347年頃～420年9月30日）ダルマチア（現クロアチア）に生まれた。キリスト教の教父・聖書学者である。ヒエロニムスの英語名はJEROME。聖書翻訳にあたっては聖女パウラの献身的なサポートを得て20年の長年月を費やした。作業はイエスの生まれた聖誕教会近くの洞窟で翻訳に没入したとされる。バチカン美術館にはレオナルド・ダ・ダヴィンチが描いたヒエロニムスの絵がある。またポルトガルの世界遺産である「ジェロニモス修道院」の守護聖人はヒエロニムスである。

ローマに滞在していた時、市内の「サン・ピエトロ・イン・ヴィンコリ教会」に何度か通った。この教会の祭壇には聖ペテロがエルサレムの牢に鎖で繋がれていた時の鎖（＝イタリア語でヴィンコリ）がまつられているが、ヴィンコリ教会にはもうひとつ人々を引き付ける彫刻がある。入り口を入り右奥に有名な

ミケランジェロ作の大理石のモーゼ像がある。座しているモーゼの頭をよく見ると2本のとがった角の様なものがある。最初見た時には角のようだがまさか？と思ったり、髪型かなと思ったり、この時代のファッションかなと考えたりした。しかし何度見ても角のようだし、モーゼは偉大なリーダーなのだから際立たせるための特別の髪型かな？などいろいろ勝手な想像を巡らしてみたりしたが、内心の疑問はそのままにして過ぎてきた。

その後イスラエルへ旅行することになり、キリストの生まれたベツレヘムを訪れ、はからずも現地ガイドから中庭に立つ像がヒエロニムスの聖書への功績を記念したものであることの説明を受けて角の謎が解けた。現地ガイドが誤訳の箇所は「角」と言い切ったのだ。なるほどするとミケランジェロは聖書を読み、わざわざ聖書通りモーゼの頭に角を付けたのだと納得できた。今から1600年も前の誤訳が巨匠の彫刻にも現れていたことを



知ったのである。 (2019年)

ローマにあるモーゼ像